

北杜市公共施設個別施設計画(素案)に関するパブリックコメント募集の結果

市民の皆様からいただきましたご意見については項目ごとに整理し、それに対する市としての考えについて以下に示します。

実施期間：令和5年12月20日(水)から令和6年1月26日(金)まで

意見提出状況：提出者 43人

- 追加・修正・・・意見趣旨を踏まえ、計画へ反映(追加・修正)するもの
- 原案どおり・・・意見趣旨に基づく原案の修正がないもの
- 記載あり・・・既に意見趣旨が原案に記載されているもの
- その他・・・今後の検討課題、今後の取り組みの参考とさせていただくもの

目次

計画全体に関すること.....	1
第3章 市民アンケート結果(20~22 ページ).....	4
第4章 公共施設の最適化に向けての方針等(23~64 ページ).....	5
第5章 施設分類別最適配置計画(最適配置ロードマップ)(65~173 ページ).....	5
第6章 施設分類別保全計画(保全ロードマップ)(174~189 ページ).....	14
第7章 削減効果の検証(190~196 ページ).....	14
第8章 計画の進行管理(197~199 ページ).....	14
資料編(200~235 ページ).....	15

計画全体に関すること

計画全体に関して		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
1	<p>・北杜市公共施設個別施設計画では、子ども達や子育て世代が利用する施設の整理縮小・民間委託が多く記載されている。北杜市に必要なのは子育て世代と子ども達に優しい市政である。この計画は、現状の課題には言及していない無責任な提案であり、北杜市の問題を解決に導かないばかりか、今後、若い世代を都市部へ流出させていく方策であると思う。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画の策定に当たっては、市民アンケート調査を実施し、市民ニーズ等を確認しております。アンケート結果では、いずれの施設分類においても、「維持や改修に多額の費用がかかる施設、利用状況、地域の人口規模や地理的な特徴の違いを考慮して集約することを検討すべき」との回答が過半数を占めておりました。</p> <p>一方、子育て支援施設と保健・福祉関連施設は、「現在の施設を全て維持し、建替えを求める」回答が約25%と他の施設分類と比較して高い割合でありました。この結果を踏まえ、子育て支援施設などは他の施設分類と比較して、できる限り機能を維持することとしております。（政策推進課）</p>
2	<p>・北杜市公共施設個別施設計画では、延床面積の削減を目標にして施設の統廃合を評価しているが、現在と将来に見込まれる運営費、維持管理費、人件費や他施設との機能の重複性、必要性を総合的に勘案して統廃合を評価するほうが市民には分かりやすい。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画は、上位計画である「北杜市公共施設等総合管理計画(以下、「総合管理計画」という。)」で掲げる目標(計画期間の満了する令和33年度までに、公共施設の保有量(延床面積)を40%程度縮減する)の具現化を図るために策定することから、総合管理計画と同様に延床面積の縮減を目標としております。</p> <p>なお、施設の最適配置の具体的な方向性検討に当たっては、本計画書(P37)のとおり、費用対効果、施設性能、必要性、立地の安全性、公共交通の利便性、サービス供給量などを踏まえる中で検討を行っております。（政策推進課）</p>
3	<p>・公共施設の縮減は、市民にとって苦痛を伴うものであり反対も多いが、本資料を読むと必須であることが分かる。しかし、膨大な資料を読み、理解のできる市民は少数に思え、理解を得られるような工夫をすることが必要であると感じる。</p> <p>例えば、他市の職員研修内で行われた、「対話型自治体経営シミュレーションゲーム」は、財政健全化の必要性を体感理解するのに有用な方法である。本資料をわかりやすく解説する会に併せて、このゲームを取り入れ、市民が市の財政について理解し、個々の施設についてではなく全体としてどんな市にしていきたいのかを意見交換をして考える場(タウンミーティングのようなもの)を作ってはいかがか。職員が説明し、市民の質問に職員が答えるという形ではなく、市民、職員、議会が一緒に同じ方向を向いて考えていけたらと思う。</p>	<p>■その他</p> <p>・本計画では、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が決定していない「方向性検討施設」が多く存在します。</p> <p>このため、今後、第5章 施設分類別最適配置計画における施設分類別最適配置方針に基づき、施設所管課ごとに「方向性検討施設」の方向性を検討していくに当たり、市民の皆様からのご意見をお聴きする際には参考とさせていただきます。（政策推進課）</p>
4	<p>・本計画は、具体性がなく、市民には全く理解することができない。令和33年度までの今後28年間を誰が責任を持つのか。現実性に欠ける計画提案だと感じる。計画内容を市民に見えるようにするためには、10年ごとの実施計画を示し、ひっ迫している状況を伝えながら段階的に縮減する具体的な計画を示すことが必要であると思う。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画の期間は、「北杜市公共施設等総合管理計画」の最終年度に合わせ、令和33(2051)年度までとしております。</p> <p>また、第5章 施設分類別最適配置計画においては、計画期間を3期に分類し、第1期(2024年度から2031年度)、第2期(2032年度から2041年度)、第3期(2042年度から2051年度)の概ね10年ごとの取組内容を記載しております。今後、本計画に基づき、施設分類ごとに定めた縮減数及び縮減面積の目標達成に向け、市民や関係者の皆様からのご意見をいただく中で、公共施設の最適配置を推進してまいります。（政策推進課）</p>
5	<p>・ホール、総合会館、体育施設、福祉施設、農業施設など、多くの課題を抱えていると思うが、施設所管課で10年実施計画に沿った取組の管理、監督をし、地域バランスを考慮しながら縮減・再編を実行していくことが求められる。例えば、市立病院が2箇所あるが、診療を受けるためには当然通ってくる。自分が必要だから少々遠くて不便でも施設に向かうのである。総合支所や図書館なども施設数が減ったことや少し距離が遠くなることは「慣れ」であるため、当然不満も出るが早期に再編に着手すべきである。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画は、PDCAサイクルの実施により進捗管理を実施してまいります。</p> <p>本計画に基づき、施設所管課が取組を進め、毎年度、推進事務局である政策推進課が進捗状況を確認する中で、目標の達成状況等の検証を行い、必要に応じて改善を図ってまいります。</p> <p>なお、第7章 削減効果の検証における(3)今後の課題においても記載したとおり、現時点で方向性が決定していない「方向性検討施設」の具体的な検討に早期に着手し、公共施設の最適配置を推進してまいります。（政策推進課）</p>
6	<p>・平成29年3月に策定された「北杜市公共施設等総合管理計画」の進捗状況は、結果はどのように市民に公表されているか。進捗状況を議会や市民に公表することで、施設の縮減・圧縮・再編成などの理解につながっていくのでは。</p>	<p>■その他</p> <p>・いただきましたご意見のとおり、計画の進捗状況を広く公表することにより、公共施設の縮減等への理解につながるものと考えております。</p> <p>しかし、「北杜市公共施設等総合管理計画」は、本市の公共施設の延床面積を総体的に縮減することを目標としており、この目標の具現化を図るため、個別施設ごとの方向性を示す本計画の策定を進めているところであります。</p> <p>このため、本計画の策定後、施設分類ごとに定めた縮減数及び縮減面積の目標値に対する進捗状況を公表してまいりたいと考えております。（政策推進課）</p>

7	<p>・市役所本庁舎の建替え、図書館の再編、中学校の統廃合、保育園の縮小など、この計画を実行すれば、こども2倍はおろか、地域の衰退、人口減少に拍車がかかり、北杜市の未来はないと考える。北杜市の今後30年近くの方角性を決定する重要課題であることに鑑み、計画をいったん白紙に戻し、一般市民と真摯に向き合って議論を深め、合意を得る努力を求め。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画の策定に当たっては、市民アンケート調査を実施し、市民ニーズ等を確認しております。アンケート結果では、いずれの施設分類においても、「維持や改修に多額の費用がかかる施設、利用状況、地域の人口規模や地理的な特徴の違いを考慮して集約することを検討すべき」との回答が過半数を占めておりました。</p> <p>このため、アンケート結果を踏まえて定めた、施設分類ごとの縮減数及び縮減面積に基づき、現時点で多く存在する施設の方向性が決定していない「方向性検討施設」の検討に当たっては、市民、関係者の皆様からのご意見をお聴きする中で進めてまいりたいと考えております。（政策推進課）</p>
8	<p>・膨大な資料(本計画)に対して、市からの十分な説明もなく、パブリックコメントでの意見募集は無茶(返答に困る話題を投げかけること)ではないか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画の分量も多いことから、今回のパブリックコメントの実施に当たっては、通常よりも極力長い期間を設けるとともに、概要版を公表し、分かりやすさに努めたところであります。ご理解をお願いします。（政策推進課）</p>
9	<p>・市長と語る会において、計画(概要版)の説明があったが、短時間で一方的な内容であった。本計画の説明は、十分な時間をかけて質疑応答の時間も設けるべき内容であると思う。別途、説明会の開催を要望する。</p>	<p>■その他</p> <p>・本計画の対象施設(362施設)は、芸術・文化、スポーツ、産業・観光など多岐に渡っております。このため、市民アンケートの結果を踏まえ、施設分類ごとの縮減数、縮減面積を決定したところであります。</p> <p>今後、現時点で多く存在する施設の方向性が決定していない「方向性検討施設」の検討に当たっては、市民、関係者の皆様からのご意見をお聴きする場を検討してまいりたいと考えております。ご理解をお願いします。（政策推進課）</p>
10	<p>・なぜ、延床面積を40%減らさなければならないのか。なぜ、人口規模が類似する合併市と同程度に延床面積を減らさなければならないのか。説明が足りない。県内で比較すると、本市の計画が一番高い削減率になっていないか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画の上位計画である「北杜市公共施設等総合管理計画」において、現在、本市が保有する全ての公共施設を維持していくための費用は、今後の年間予算の目安となる、直近10年間の実績額の2.2倍に相当し、これらの均衡を図るためには、約55%を縮減しなければならないと推計しております。</p> <p>このことから、本市の実情を踏まえ、著しい市民サービスの低下を防ぐことなどを考慮する中で、40%程度縮減する目標を掲げたところであります。（政策推進課）</p>
11	<p>・延床面積を40%減らす根拠が不明。他市では10~20%が多い。人口規模での比較のみではなく、面積が広い北杜市の特別な事情をどう考えているのか。自然豊かで、施設もある程度整っている北杜市だからこそ移住者に人気であり、移住者が減少すると人口は激減する。</p>	
12	<p>・なぜ延床面積を40%減らさなければならないのか。地方自治体なのだから、国の政策からは独立して、北杜市の政策があって独自でいいはずだ。政府の提案通りにしているのではないか。説明が足りない。県内で比較すると、一番高い削減率だと思う。</p>	
13	<p>・複合化して各地域に拠点を残す方針が掲げられているにもかかわらず、学校教育施設や福祉施設、スポーツ施設など他の分類との複合化が検討されていないものが多い。利用促進や利便性、機能を高めるうえでも、所管課をまたいだ複合化をもっと検討すべき。例えば、放課後児童クラブは学校施設内に設置されることが、安全面、機能面でもふさわしいし、保育園は他の福祉施設や教育施設と併設することにより、異年齢・多世代の交流が期待できる。</p> <p>特に学校教育施設については、小中学校の垂直統合や他の社会教育施設や福祉施設等と複合施設化することで、教育効果の向上、多様な人間関係の構築と協働の可能性、地域に開かれた学校づくり、部活動の地域化といった学校機能の充実が期待できる。こうした方向性も視野に入れて、子どもや地域にとって最善の方法を柔軟に考えて頂きたい。</p>	<p>■その他</p> <p>・本計画では、公共施設の複合化、集約化を推進し、効率的な維持管理・運営や公共サービスの維持・向上を図ることを基本方針の一つとしております。このため、現時点で多く存在する、施設の方向性が決定していない「方向性検討施設」の検討に当たっては、全庁横断的に進めてまいりたいと考えております。</p> <p>なお、本計画の推進体制の強化を図るため、「北杜市公共施設等総合管理計画推進本部」において、検討事項等を共有し、効果的かつ効率的な複合化、集約化を進めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。（政策推進課）</p>
14	<p>・適正配置を考える上で、市のゾーニング計画は必須ではないか。まずは、居住促進地域や公共交通の重点地域といった、公共施設の利用に大きく関わる計画を立て、考慮しなければ、利便性や費用対効果の高い施設計画は作れない。インフラ整備にもかかわるゾーニング計画はあるか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・現在、本市のまちづくりに係るゾーニング計画は策定されておられません。</p> <p>本市の生活圏は、旧町村の8地区で形成されており、地形的要因により、「八ヶ岳南麓高原エリア(高根町、長坂町、大泉町、小淵沢町)」、「甲斐駒ヶ岳エリア(白州町、武川町)」、「茅ヶ岳・瑞牆山エリア(須玉町、明野町)」の3エリアに分かれています。このため、こうした地形的要因や市民の皆様の移動手段などを総合的に勘案する中で、今後、現時点で多く存在する、施設の方向性が決定していない「方向性検討施設」の検討を進めてまいります。（政策推進課）</p>
15	<p>・現在、審議会等で検討中の施設について、この計画で方針を先に示してしまっは、会議の意味が無くなってしまいが、整合性はどうか。審議会等で、この計画と異なる結論が出た場合、どちらが優先されるのか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・現在、「北杜市立中学校再編整備検討委員会(以下「委員会」という。)」において、「北杜市立小中学校適正規模等についての答申(令和4年3月)」に基づき、中学校の適正規模、適正配置、通学区域に関する協議を進めております。今後、委員会の検討結果を踏まえ、本計画における最適配置後の配置数を見直す必要があると判断される場合は見直しを行います。</p> <p>また、今後、新たに審議会等が設置された場合も、同様に取り扱うこととします。（教育総務課・政策推進課）</p>

16	<p>・それぞれのカテゴリ内の配置計画だけでは、全体としてどのような施設数、配置になるのかわからない。複合化、集約化、廃止した際の各地域のサービス状況が30年後にどうなるのかわかる図を入れて欲しい。問題は、施設がどうなるかというより、サービスの質と量がどう変わるのか、どうしたいのか。そこが明確になっていないと、市民は不安を感じてしまう。最低限保証される(保証しようと努める)サービスを提示して、それに必要な施設配置を計画するという順序で検討すべき。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画では、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」が多く存在します。このため、今後、「方向性検討施設」の検討に当たっては、著しく市民サービスが低下することのないよう施設分類ごとに、市民、関係者の皆様のご意見をお聴きする中で進めてまいりたいと考えております。(政策推進課)</p>
17	<p>・費用面の負担から始まった削減計画だが、ランニングコストを含めて試算しなければ、かえって経費が増える可能性がある。例えば中学校を統合することにより、スクールバスの運行費、道路の改修工事費用などが見込まれ、財政負担が増した自治体もあると聞く。施設の維持、改修費用だけでなく、サービスを維持するために見込まれるランニングコストを含めて縮減効果を評価しているか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画では、施設の最適配置の具体的な方向性検討に当たり、本計画書(P37)のとおり、現在の施設における費用対効果、施設性能、必要性、立地の安全性、公共交通の利便性、サービス供給量などを踏まえる中で検討を行っております。</p> <p>しかし、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」が多く存在することから、将来の改修費用以外の費用を算出することが困難な状況であります。このため、今後、「方向性検討施設」の検討に当たっては、改修費用以外の費用も含める中で評価してまいりたいと考えております。(政策推進課)</p>
18	<p>・2024年1月能登半島で大地震が発生し、避難所に被災者が身を寄せている。現在、中学校・図書館の再編が進められようとしており、支所機能も職員が少なくなっている。武川・白州地域エリアとして、防災の観点から避難所の整備が必要ではないか。「このエリアは、こうした施設がありますから、安全です」と言えるように「見える化」する事。市民の安全確保を図るためにも、学校・図書館、公共施設などエリアとしての姿も示すべきではないか。災害の発生はいつ起きるか予測がつかない、避難所に冷暖房など備えることも必要ではないか。施設の削減だけを問題視するのは疑問である。</p>	<p>■その他</p> <p>・本計画では、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」が多く存在することから、今後、「北杜市地域防災計画」に記載のある避難所及び収容人数等を踏まえる中で検討を進めてまいります。具体的には、個別施設の機能を廃止する場合、近隣に避難所の確保が可能であるか又は建物を譲渡等する場合は、避難所としての解放を条件とするなど、防災面にも配慮した検討を行ってまいります。</p> <p>また、冷暖房設備の設置については、避難所数が多いことから、予算面を含め慎重に検討する必要があると考えております。(消防防災課・政策推進課)</p>
19	<p>・計画冒頭で人口減少・少子高齢化に触れているが、人口減少があるから「削減」なのだと思えば、さらに希望と人口が減っていく。人口が減っても、社会経済を安定的に発展させるための「長期計画」が必要ではないか。50年後には人口が半数になるのではないかという調査もある。「長期計画」を国任せにするのではなく、今こそ地方から発信すべき。P2で「各省庁が示すガイドライン等に基づき、分野ごとに長寿化に向けた取り組みを進めていきます」とあるが、こうした基本姿勢で今日抱えている問題解決になるのか。「国に逆らえ」ということではなく、「国に提言していく地方自治」という基本姿勢がないと、28年後、さらに深刻な事態が待っていることになる。国連の「人口白書」では「出生率に数値目標を定めるような政策は長期的な効果が小さく、女性の権利が損なわれることがあきらか」としている。本計画で「出生率云々」は示していないが、数値目標の提示の前に大きな時代の分析がなければ、北杜市の努力が報われないのではないか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画は、国の「インフラ長寿化基本計画」を受けて策定するものでありますが、内容については、本市の実態に即した内容となっております。本市の公共施設の最適化に向けての基本方針では、単に建物を縮減するのではなく、複数の機能を1つの建物に複合化することで、効率的な維持管理・運営や公共サービスの維持・向上を図ることを定めております。</p> <p>この点を踏まえ、今後、公共施設の最適配置を推進するに当たっては、著しく市民サービスが低下することのないよう進めてまいります。(政策推進課)</p>
20	<p>・施設の統廃合は慎重に行うべき。他の市との比較も地理的条件が異なるため、参考程度にしかならない。広い面積、人口約4万人、交通網が整備されていない本市では施設が点在していた方が便利。車を運転する方にとっても、運転できない方にとっても遠くよりも近くにあるに越した事はない。まして、移住を考えている家族にとっては障害にもなりかねない。大都市では車の所有率も低い。スクールバスがあっても停留所まで車で迎えに行っているのが北杜市の現状。一度統廃合した施設を元に戻す事は大変。ぜひコスト面だけでなく慎重な判断をいただきたい。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画では、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」が多く存在することから、今後、市民、関係者の皆様のご意見をお聴きする中で、交通手段の確保等を含め、総合的に検討してまいります。(政策推進課)</p>
21	<p>・他の市を見るのも大事ですが、北杜市には北杜市の未来があると思う。財政がもしかすると厳しくなると言われても、数億円ものお金が毎年積立に回っているのに、どう考えたら将来が不安になるのか。公共施設の床面積を減らす？意味が分からない。施設の充実を考えてみてはいかがか(市民は喜ぶ)。もう一度考え直していただきたい。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画では、本市が保有する全ての公共施設を今後も維持するためには、年間約42.8億円の費用が必要となり、直近10年間の整備・改修費用である17.1億円の約2.5倍となっております。</p> <p>また、少子高齢化や人口減少の進行により、将来的に税収の減少や扶助費等の支出の増加が見込まれることを考慮すると、財政的制約の強まりは避けては通れない課題であることから、ご理解をお願いします。(政策推進課)</p>
22	<p>・238ページもある事細かな資料に市の広報だけで理解するのはきつい。ピックアップはしっかりできているようで資料としての価値はあるであろう。しかし実態を把握してのものか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画では、施設の最適配置の具体的な方向性の検討に当たり、市民アンケート結果や本計画書(P37)のとおり、現在の施設における費用対効果、施設性能、必要性、立地の安全性、公共交通の利便性、サービス供給量などを踏まえる中で検討を行っております。(政策推進課)</p>
23	<p>・公共施設の総量が人口比で北杜市は県内他市と比べても倍ほども多く、全国的に見ても1.6倍もある、と指摘している。施設の老朽化進行、人口減少化、財政逼迫傾向等の要因から、現状のまま公共施設を維持管理することは不可能だと結論づけている。総合的に見れば、正しい指摘の面があるが、それらに対応する行政の施策として、公共施設の床面積を平均40%減らすという目標を立てているが、これは他市と比べても多すぎる目標ということは置くとしても、削減ありきの方針を最初に打ち出すという方法は、市民生活の将来的安定、向上(若年人口を第三次総合計画にあるような「ありたい姿」で実現するには、欠かせない施策)を、どのように実現させるかの議論が袋小路に落ちてしまう。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画の策定に当たっては、市民アンケート調査の結果を踏まえ、市民、有識者等で構成する「北杜市公共施設等総合管理計画等検討委員会」において審議をいただいた上で、素案を策定しております。</p>

	<p>将来的財政逼迫をどう見るのかでさえ、いくつもの論点が存在し、必ずしも、一枚岩の結論が出ているわけではない。したがって、本来は、個別計画が打ち出される以前に、市民(市民に選ばれた市議も含む)、行政、有識者からなる検討委員会なるものを立ち上げて(かつての太陽光発電問題の検討委員会のような)、そもそものところから審議する姿勢が行政には求められるのではないか。これには当然時間がかかる。しかし、そうして得られた結論は、市民に痛みを伴うものであっても、多くの市民は納得して、行政の施策に協力していくもの。有名な多治見市のやり方は参考になるのではないか。</p>	<p>しかし、計画では施設分類ごとの縮減量、縮減面積は、お示しておりますが、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」が多く存在することから、今後、市民、関係者の皆様からご意見をいただく中で検討してまいりたいと考えております。(政策推進課)</p>
24	<p>・図書館や行政施設、温泉施設の統合や廃止に反対である。市内の交通も整理されていないのに、これでは車のない人などが孤立してしまう。行政施設も古いとは言っても一般家庭より頑丈ではないのかと思うので、災害時に避難できる場所がなくなれば、その地域が危険なところになると思う。 また、若い人を呼ぶには、まず市の職員を増やし、若い人の意見が言えるようにするべきだと思う。50歳以上の人は囑託にして、毎年、若い人を採用すれば良いのでは。また、市議会議員の年齢制限を、例えば65歳以下にするなどして世代交代を考えるべき。</p>	<p>■原案どおり ・「北杜市公共施設等総合管理計画」において、本市が保有する公共施設を今後も全て維持していくことは、財政状況を踏まえると非常に困難であることが見込まれており、最適配置の推進が急務となっております。 一方、現時点で多く存在する個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」の検討に当たっては、防災面、利便性等を総合的に考慮する中で進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。(政策推進課)</p>
25	<p>・北杜市では、パブリックコメント制度は形骸化しているのではないか。ぜひ、市民から計画変更の意見が多く提出された内容については、本計画を見直していただきたい。</p>	<p>■その他 ・本計画の分量も多いことから、今回のパブリックコメントの実施に当たっては、通常よりも極力長い期間を設けるとともに、概要版を公表し、分かりやすさに努めたところであります。ご理解をお願いします。</p>
26	<p>・市の行うパブリックコメントについて、全体的に、この時期に6つを募集することは、形だけ聞いて素案をそのまま進めちゃう意図があると思われてしまうのではないか。</p>	<p>・本計画は、本市が保有する362施設について、個別施設ごとに今後の方向性を定めることを目的としておりますが、施設分類も多岐に渡っていることから、市民アンケート調査の結果を踏まえ、施設分類ごとの施設縮減量及び縮減面積をお示したところであります。</p>
27	<p>・こうした「意見集約」のシステムは機能しないことを改めて感じる。膨大な資料を貸出期間1週間というのは無理無謀というもの。短時間で読み取することは困難。市民の意見を聞くという現在のシステム(パブリックコメント方式)が機能していない。 これまで数多くのパブリックコメントを募ってきたが、十分な役割を果たしたものになっていない。何度かパブリックコメントに参加したが、「意見は一応聞いた」的なものになっている。市民の意見集約のあり方について十分検討する必要がある。「これで市民の意見を聞いた」というのは、「アリバイ作り」でしかない。こうした市民生活に関わる重要事項に対する基本的な姿勢がこれでいいのか。</p>	<p>今後、施設分類ごとに個別施設の方向性を検討していくに当たっては、それぞれの施設に関係する皆様にも参画をいただく中で検討を行っていく必要があると考えます。 このため、いただきましたご意見を参考にさせていただき、より多くの市民の皆様からご意見をお聴きする体制づくりに向けた検討も進めてまいりたいと考えております。(政策推進課)</p>
28	<p>・パブリックコメントが年々形式的になっているようにも感じる。これで市民の意見は聞いた、反映させた、という扱いは避けていただきたい。主人は納税者、市民である。市長、副市長たちの構想を短時間で結論づけるのではなく、市民代表を参加させ、開かれた運営を強く訴える。</p>	
29	<p>・北杜市のパブリックコメント制度は形骸化しているのではないか。これまで市からの提起に市民は真面目に答えているのに、それが生かされているように見えない。確かに記録はされて、公開はされている。(北杜市パブリックコメント制度では、「多くの方の意見を聴くことにより、市の政策形成過程における透明性および公正性の向上を図るとともに、より市民の需要に合致した市民参加型の行政を推進しようとするものです」との記載はあるが)折角のパブリックコメント制度を、市に活用能力がない、市民の力を無駄にしている、ということではないだろうか。</p>	
30	<p>・わたしの知る限り、北杜市のパブコメ時期が、年末・正月をはさんだ1ヵ月ということが多い。この時期、市民生活は、多忙を極め、じっくり対象となる施策文書(238ページ)を読む時間を割くのが困難。その上、今回は、パブコメにかかる計画が、同時期に5件もあって、物理的に全部の文書を読むのさえ無理がある。</p>	

第3章 市民アンケート結果(20～22 ページ)

3-2 アンケート結果(22 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
31	<p>・市民アンケートの結果は初めから分かっている、ただ形式的に「民主的に市民の皆さんの意見を聴きました」というアリバイ作りに使われただけだと思った。なぜなら、市はこのアンケートで、公共施設の利用いかなを問わず一般の市民に、「今のまま公共施設を維持したら、毎年37億円もかかります。財政がもたせません。」というたい文句を掲げて答えを求めていたからである。そんなアンケートを多くの時間とお金をかけて取り組み、思惑どおりの結論を導き出し、それを金科玉条にして縮減を強行する、それが今の市の姿勢である。 また、市も計画の中で認めているが、「北杜市公共施設等総合管理計画」、「市の財政状況」、「施設の管理運営費」を多くの方が知らないことに対し、更なる周知、情報公開が必要としているが、大々的に市民に知らせ理解を得ようとする姿勢は感じられない。</p>	<p>■その他 ・昨年5月に実施した、市民アンケート調査は、「北杜市公共施設等総合管理計画」に基づき、本市の財政状況を踏まえた上で、公共施設に対する考え方をお聴きしたところであります。 これは、本市の今後の財政状況の見通しにおいて、現在、保有する全ての公共施設を維持することは非常に困難な状況であり、将来に渡り持続可能な財政運営を推進するためには、この現状をご理解いただいた上で、ご意見をお伺いする必要があると判断したためであります。</p>

32	<p>・「今後の財政状況を踏まえると、今ある施設をすべて維持していくことは 困難になることが見込まれることを知っていますか。」などの設問で、市民 3000 人を対象にしたアンケート調査結果があるが、誘導質問との批判があがっている。これでは、多数の善意の市民は、「であれば、市が計画している行革も致し方ないね」と回答を寄せるのは当然。それを狙ったとしか思えないアンケートとの誹りは免れないだろうと思う。</p>	<p>一方で、周知や情報公開が十分でないことも把握することができたことから、今後は、広く情報発信に努めてまいります。(政策推進課)</p>
----	--	---

第4章 公共施設の最適化に向けての方針等(23～64 ページ)

4-4 公共施設の最適化に向けての基本方針(27～29 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
33	<p>・「合併後の特性を踏まえた利用圏の再構築も考えられるため、施設の配置については、生活圏や地形的要因を踏まえ、市民生活への影響を十分考慮した上で設定」との趣旨、基準は重要な指摘だと考える。個々の施設について将来像をどうするか、上記の趣旨と基準で検討することを求める。</p> <p>現在、検討が進行中の図書館と中学校の再編・統合について、どちらも日々の市民生活に直結する重要な施設のひとつであり、北杜市の人口減に歯止めをかけ、現役世代の転入、子どもの数を増やす中心課題と関連する施設である。しかし、現在、どちらも他の公共施設の再編に先駆け、計画が先行し、方向性が打ち出されてきている。そのため、検討委員会等での議論も生煮えで、まして、市民レベルでの意見聴取、議論の展開など、少なくとも、市民が納得のいくレベルでの集約は出来ていないように見える。そのため、どちらも市民運動が活発に実施され、署名や啓蒙活動などの行動が行なわれている。</p> <p>財政的要請ないしは人口構成の変化などを理由に、図書館や中学校を減らすことが、本当の意味で、合理的な選択肢であるのかどうか、もっと突っ込んだ議論が必要ではないか。一人当たりの公共施設の面積を問題視する場合、人口密度基準の公共施設の面積、さらには、中山間地の地形的特性を考慮した(交通手段が絡んでくる)検討も必要となる。学校があり、図書館があつての子育てである。第三次総合計画を実現させる本気度が試される場面ではないか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画における、図書館及び中学校の方針については、「北杜市新・行政改革大綱」に基づき定めております。</p> <p>また、本計画では、中学校の縮減量、縮減面積はお示ししておりますが、現時点で甲陵中学校以外の個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない状況であります。</p> <p>このため、現在、「北杜市立中学校再編整備検討委員会」において、生徒数や定員数、学校施設・設備、教員等の配置も考慮する中で、中学校の適正規模、適正配置、通学区域について検討を行っているところであります。</p> <p>(教育総務課・政策推進課)</p>

第5章 施設分類別最適配置計画(最適配置ロードマップ)(65～173 ページ)

施設分類別最適配置計画 全般		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
34	<p>・各カテゴリーの最適配置計画は、なぜそのような方針になるのかの説明がなく、せっかく算出した施設評価結果や、充当量の分析結果がどう反映されているのか分からない。利用率やニーズ、立地、各種分析結果などを踏まえて方向性を導き出すよう書き直していただきたい。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画における公共施設の最適配置の具体的な方向性の検討に当たっては、「市民アンケート調査の結果」、「本市が本来保有すべき公共施設の総量の考え方」、「施設特性による利用圏域を踏まえた公共施設の配置バランスの考え方」を踏まえ、定量評価(一次評価)、定性評価(二次評価)、立地状況評価(三次評価)を実施し、総合的に評価しております。</p> <p>このため、現在の記載のとおりとさせていただきますのでご理解をお願いします。(政策推進課)</p>
35	<p>・集会施設、図書館、体育館、温泉施設等は、かなりの頻度で使用しており、市民生活にとっても貴重な施設である。1期・2期・3期と約30年にわたる計画であるので、「方向性」については市民も参加した話し合いの場が必要ではないか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画では、施設分類ごとの縮減量、縮減面積は、お示ししておりますが、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」が多く存在することから、今後、検討に当たっては、市民、関係者の皆様からご意見をいただく中で検討してまいりたいと考えております。(政策推進課)</p>

5-1 行政系施設(68～72 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
36	<p>(本庁舎)</p> <p>・旧秋田小学校(長坂町)を改修し、「ハケ岳総合支所」として、本庁と2箇所体制にすべきである。旧秋田小学校周辺は、病院、ショッピングセンター、高速道路インターチェンジ、JR長坂駅などが近く、非常に利便性が高いため、倉庫として利用していたのではもったいない。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・市役所本庁舎は、現在、「現在地において新築(現在の建物を解体し、新たに建設)」、「現在地において現在の建物を増築(現在の建物を利用し、不足する面積を増築)」、「他の場所に移転して新築(現在地以外の場所に新たに建設)」の3つのパターンに基づき検討を進めております。今後、市民の皆様からのご意見などもお伺いする中で、更に検討を進めてまいりたいと考えております。</p>
37	<p>(本庁舎)</p> <p>・本庁舎は、堅牢な建物であり、建替えではなく補修で維持し、その積立金を他の施設のために使用すべきである。また、総合支所の機能を縮小するのではなく、最低現状を維持すべきである。</p>	<p>また、「北杜市新・行政改革大綱」に基づき、本庁の人員配置を強化し、効果的かつ効率的な行政サービスが提供できる体制を構築するため、総合支所は市民サービスに直結する窓口業務を基本とした、行政センター化への移行を進めてまいります。(政策推進課)</p>

5-2 市民文化系施設(73～77 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
38	(集会施設) ・施設自体は大きいですが、各町にだいたい1か所であり、半分を削減されることになる。災害時の拠点施設であり、本市は面積も広く、高齢化もしていることから、より身近な施設を頼ることになる子ども・障がい者・妊産婦・高齢者など目的別に応じた避難場所の確保が必要となるのではないかと。	■原案どおり ・本計画において、集会施設の分類には、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」が多く存在することから、今後、「北杜市地域防災計画」に記載のある避難所及び収容人数等を踏まえる中で検討を進めてまいります。具体的には、個別施設の機能を廃止する場合、近隣に避難所の確保が可能であるか又は建物を譲渡等する場合は、避難所としての解放を条件とするなど、防災面にも配慮した検討を行ってまいります。(消防防災課・政策推進課)

5-3 社会教育系施設(78～86 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
39	(図書館) ・広い北杜市で各町に図書館(8館)は必要である。2010年(平成22年)の「北杜市図書館適正配置委員会」は8館の整備を提言している。そのような図書館を3館にして、他の5館を図書館法に基づかない「コミュニティ・コモンズ」なるものにすることは許せない。コミュニティ・コモンズにより、職員もいない集いの場にするには図書館ではなくなってしまうと考える。	■原案どおり (図書館) ・市立図書館再編の基本的な考え方は、「北杜市新・行政改革大綱」に基づき、「北杜市立図書館適正配置等検討委員会」における令和5年度の提言書の内容や、近年のデジタル化の進展による図書館利用の形態の変化、少子高齢化の状況等を踏まえ、中長期的な視点から図書館の機能強化や地域拠点とした持続可能な図書館のあり方について検討した結果であります。 今後は、市立図書館として機能を強化する図書館(3館)と、生涯学習施設として地域の活動拠点や幅広い年代の皆様が立ち寄ることができる居場所機能に、図書館サービスポイントとしての機能を加えた「コミュニティ・コモンズ」(5施設)による運営を行ってまいります。 ・市立図書館再編の方針は、市ホームページ(「北杜市立図書館適正配置等検討委員会会議録及び提言書」)において公表しております。
40	(図書館) ・図書館5箇所を急いで削減する目的は、施設の延床面積を減らすことには貢献しない。人件費削減のためか。5箇所のコミュニティ・コモンズ化を中止してこれまでの図書館を残していただきたい。	・図書館(3館)の機能強化について、レファレンス機能の強化及び蔵書の集約化による資料の充実を図ります。また、3館それぞれに特色を持たせた資料収集や各種事業の充実、各施設、学校との連携などを行ってまいります。 コミュニティ・コモンズでは、3図書館に設置されている図書予約、借り受け及び返却ができるほか、コミュニティ・コモンズに設置されている図書館資料の借り受け及び返却もできます。また、これまでと同程度のタイトルの雑誌、新聞を設置し、図書館付けの司書を派遣し、レファレンス等の対応も行っています。 ・図書館司書とは、これまで、必要に応じ打ち合わせを実施し、様々な意見を取り交わしており、今後も継続して実施してまいります。
41	(図書館) ・10月から図書館を3館にして、残りの5館は「コミュニティ・コモンズ」にするという方針を聞いて唖然とした。 ①この方針をどのように市民に知らせているのか。 ②図書館(3館)の機能強化の内容を具体的に示していただきたい。 ③コミュニティ・コモンズとは、どのような施設か。 (1)図書、雑誌、新聞を設置するのか。 (2)図書等を設置しない場合、どのように本を探して借りるのか。 (3)パソコンなどを使用できない人は置き去りか。 (4)司書を配置するするのか。 (5)施設管理、運営は誰が行うのか。 (6)司書の意見を聞いているのか。 ④どのような「まちづくり」をするか、何を柱にするかなどの論議やビジョンもなく、市民の生涯学習の拠点である図書館を減らすようなことは絶対しないでいただきたい。北杜市のような広域な地域では、今までそれぞれの地域で育てられてきた図書館を残すことこそ市民の願いである。何より、多くの市民が図書館再編のことを知らない、知らされていない。拙速な実施は大きな遺恨を残す。	・将来の施設数(図書館(3館)、コミュニティ・コモンズ(5施設)の8箇所)に変更はありませんが、建物については、明野図書館(59㎡)及びたかね図書館(750㎡)の2施設が、計画期間内において耐用年数に到達することから、面積を縮減しております。現有面積(4,257.8㎡)に対し、当該2施設の面積(809㎡)を差し引き、計画期間満了時の延床面積を3,448.8㎡としております。このため、8施設個別の計画満了時の数値及び変化量は算出していないことから、施設ごとの計画図も存在しません。(中央図書館・政策推進課)
42	(図書館) ・図書館の再編は、合併後に協議し、「現状のとおり」となっており、この結果が大きな問題であったと感じる。現在の図書館3館、コミュニティ・コモンズ5館の方針では、人件費や維持管理費もかかり、いつまでたっても減らすことはできない。 全ての公共施設に言えることだが、図書館を利用したい熱心な方よりも利用しない人の方が圧倒的に多いと思う。本当に読みたい本がある人は、多少の距離があっても通うはずである。私的には、地域性を考慮しても2館でよいと思うし、将来的には1館にすべきである。 長坂図書館は、学生の送迎等の待機場所にもなっていると思うが、図書室は各学校に整備されていることから、あえて残す必要はなく、他の機能に変更すべき施設であると考えている。	

43	<p>(図書館)</p> <p>・市民アンケートの結果、市は、「77%から縮減の理解を得られた」として、早くも3月議会に「図書館の3館への縮減条例を提案しようとしている」と聞いた。あまりにも拙速である。図書館3箇所への縮減、5箇所のコミュニティ・コモンズ化はすべきではない。8館存続を。</p>	
44	<p>(図書館)</p> <p>・図書館を減らさないでいただきたい。8館それぞれ個性的な取組をしていて、北杜市はいいなど改めて見直している。市民の心の灯を消さないでいただきたい。学校も図書館もほとんどないような辺境の地に、これから子育てをする若い人は来なくなる。地域の拠点としての役割がなくなる。</p>	
45	<p>(図書館)</p> <p>・図書館は、どのような計算で延床面積が減るのか。</p>	
46	<p>(図書館)</p> <p>・中核的な図書館3箇所程度にとの方針はあまりにも拙速すぎる。5館をコミュニティ・コモンズにするというが、市民合意もされておらず、進め方に反対。「何を目的に再編するのか疑問。現場とも今後の進め方の話し合いもない。市民の協力も相談されてない。子どもが通える場所に図書館がなくなるのは問題」「本の貸し出しができない、新しい本がない。段々と人が来なくなる」など、心配する意見が多数ある。3月の条例の改定は、いったん引き延ばすことを求める。</p>	
47	<p>(図書館)</p> <p>・8館から3館へ縮減するという基本方針は熟慮・熟議を欠いている。図書館行政の長期的方針にかかわる重要な問題であるため、原点に立ち戻って再考・再論願いたい。</p> <p>(理由1)過去方針を一顧だにしていない。</p> <p>8町が合併して北杜市になった後、2011年2月に、教育委員会は「今後の市立図書館のあり方」を公にして図書館行政の道筋を描いた。その既定路線を変更するのであれば、その理由を明確にしなければならないのは勿論である。これまでのところ、市も、教育委員会も、路線変更の理由を公にしていない。</p> <p>(理由2)地域事情・地域特性を考慮していない。</p> <p>3館への縮減方針は、本市の規模の自治体が本来もつべき施設量、ならびに県内各市の平均施設数(2.5館)から想起され、新・行政改革大綱で示された40%の延床面積縮減目標にも適うことから策定された。しかし、そこには市民が広く散住する地域事情も、全国トップレベルの利用状況という地域特性も考慮されていない。</p> <p>(理由3)施設特性を考慮していない。</p> <p>8つの図書館は、独立した建物ではなく、地域の教育・文化の拠点となる複合施設の一角を占めている。従って、図書館を統合・再編したからといって、それが行政改革の目指す施設延床面積の縮減に直結することにはならない。</p> <p>(理由4)評価データによる多面的検討がなされていない。</p> <p>本計画(『個別施設計画』)が、『車による移動所要時間分析』ならびに定量評価と立地状況評価からなる『施設評価』などのデータを踏まえ、公共施設の中長期的取扱いを多面的に検討しているのは適切である。教育委員会は、これらの評価・見通しも踏まえ、図書館のあり方について、『図書館適正配置等検討委員会』に具体的に諮問すべきであった。実際、検討委員会は熟慮・熟議を経ることなく『新・行政改革大綱』に据えられた基本方針を追認し、若干のアイデアを加味しただけの『提言書』を教育委員会に提示した。「8館を3館へ」という基本方針は、依然その合理性に数々の疑問が呈されたままである。</p> <p>(理由5)「行政改革推進委員会」で議論されていない。</p> <p>「8館ある図書館を3館程度に集約・再編する」という基本方針は、行政改革推進委員会で議論されることもなく『新・行政改革大綱』に織り込まれた。</p> <p>(理由6)「図書館適正配置等検討委員会」で議論されていない。</p> <p>図書館の適正規模・適正配置について審議すべき委員会では、8館を3館程度に削減する理由・論拠についての議論は一切なされていない。それに関する委員からの質問や発言は、基本方針を所与のものとし議論を避けようとする議長により遮られた。</p> <p>(理由7)「コスト低減」の道筋が明らかでない。</p> <p>新・行政改革大綱が「目指す姿」に掲げた「コスト低減」が一連の計画でどのように実現されるのか、施設管理費、要員削減計画、資料購入費の長期計画など、一切の明示がない。</p> <p>(理由8)「市民サービスの質が向上する」道筋が明らかでない。</p> <p>新・行政改革大綱が掲げた「市民サービスの質が向上」する姿が見えない。特に、5か所程度とされた「図書館機能を有した複合施設(市民交流施設)」において大幅なサービス劣化が懸念される。</p> <p>(理由9)「サービスの均衡をとる」道筋が明らかでない。</p>	

	<p>新・行政改革大綱では、8 館で運営する現状を「サービスの均衡が取れているとは言い難い」ことを中核的な 3 館程度に集約・再編する理由に挙げているが、方針はむしろ地域の不均衡を増幅させる方向に作用する。図書館は地域の情報集積施設の中核であり、その機能が低下する 5 つの地域では、地域衰退の悪循環に陥る危険性を孕む。</p> <p>(理由 10)組織複雑化の懸念を払しょくできていない。</p> <p>これまで「金田一記念図書館を中央図書館とし、他の 7 施設を分館と位置付ける」(『北杜市立図書館のあり方』北杜市教育委員会、2011 年 2 月)としてきたことには組織図上の合理性・整合性・公平性があった。しかし、3 館を中核的施設と位置付けた本計画の方針ではどのような合理性を追求するのか不明である。数を減らせば上手くいくというものではない。「1 中央館、2 中核館、5 分館」に分けて無用な「中二階」を設けたのでは、行政改革の本道に逆行すると言わざるを得ない。</p>
48	<p>(図書館)</p> <p>・計画では、図書館施設の現有面積 4, 257.80 m²が計画期間満了時に 3, 448.80 m²まで縮減され、縮減量 809 m²、縮減率 19.0 %であることが示されている。北杜市図書館の将来の姿を具体的に見極めるため、8 施設個別の計画満了時の数値および変化量(減少量・増加量)をお示し願いたい。また、計画に示された数値を得るために個々に積み上げられた施設毎の計画図面は存在するか。</p>
49	<p>(図書館)</p> <p>・コミュニティ・コモンズは図書を読覧するだけであり、それは図書館ではない。8館をそのまま残していただきたい。</p>
50	<p>(図書館)</p> <p>・図書館を 8 館から 3 館にし、5 館をコミュニティ・コモンズにすることに反対する。現状通り 8 館を維持していただきたい。近所で気軽に本を見て、借りられる図書館があることは北杜市に生活する大きな喜びである。実際に本を手にして読み、借りることが重要で、パソコンで申し込むなどということは図書館ではない。コミュニティ・コモンズという言葉は止めていただきたい。全くの造語で意味がわからない。</p> <p>だんだんと図書館機能を縮小し、廃止していく「手立て」であり市民を愚弄するもの。出されているイメージを拝見したが、お茶飲みやお喋りをしているすぐ横で本を探し、読むことができるのか。今回の図書館廃止統合、コミュニティ・コモンズ設置では市の持つ施設面積は変わらない。非常勤職員である司書や事務職員の削減が目的なのか。図書館の経費は 2022 年度市全体支出の 0.5%と聞いた。それならば北杜市の宝である図書館を大切に存続していただきたい。やり方が余りにも拙速。昨年 7 月に審議会答申が出されたが、武川、白州の図書館がなくなることを多くの市民は知らない。3 月の条例改正、10 月の廃止というスケジュールは中止していただきたい。</p>
51	<p>(図書館)</p> <p>・小淵沢、武川、白州地域では、車を使っても片道 30 分、往復では一時間という距離になってしまう。年寄りや子どもは利用者として想定外という事か。「第3次北杜市総合計画」では、「子育て、教育で選ばれる地域をつくる」、「若い世代に選ばれる地域をつくる」、「生涯を通じた学びの支援」などの目標が掲げられているが、これらを実現するには、いつでも気軽に利用可能で、身近に存在する図書館が必須。まだまだ使える市庁舎の新築は延期し、「庁舎建設基金」を市内8箇所の図書館のリニューアル又は新設に回せば、全国的に北杜市のブランド力をアピールできる。市庁舎が立派になっても注目度は低く、図書館であれば、より少ない予算で北杜市の魅力をアピールできるのではないか。</p>
52	<p>(図書館)</p> <p>・白州、武川の図書館を主に利用しており、2 館ともコミュニティ・コモンズになる案がだされているが、そこに置かれている本の貸し出しができないなどとても不便になる。白州・武川のどちらかを図書館として残していただきたい。近隣や知人も知らない人が多く、こうした中で 3 月の議会で条例案をだし、10 月から実施ということですが、なぜ 3 月なのか、拙速すぎて納得がいかない。住民への説明会を丁寧にやっていただきたい。削減するところは図書館ではない。生きる上で多くの知識を得ることはとても大事。もちろん図書館だけで賄うものではないが、市内には本屋も少なく、また本の購入は価格が高くなっていて、こうしたことに対応できるのも図書館の役割である。市民の切実な願いを聞いていただきたい。</p>
53	<p>(図書館)</p> <p>・図書館の統廃合計画について、3月議会で決めることに反対。わけのわからないコミュニティ・コモンズなどという横文字を使っても、中身は図書館廃止なので、その発想自体に猛烈に違和感を覚える。なぜ図書館を廃止しなければならないのか。北杜市は財政健全市政を誇っていたはず。合併特例債が無くなっても十分単年度黒字を維持できる財政運営をしている。余裕で市役所建設資金を 40 億円も貯めている市など他にない。図書館をなくすということは、市政の中で文化を切り捨てるということに他ならない。とても認めるわけにはいかない。将来移住してくる人が激減することは目に見えている。市長の公約である子ども2倍化にも相反するやり方である。</p>
54	<p>(図書館)</p> <p>・市内8地域にそれぞれある図書館を、5地域に残さず、遠くの3図書館まで行くことは自力では移動手段のない者にとっては、市民としての権利を取り上げられることになり納得できない。子ども達にたくさんの本がある豊かに育つ環境を地域の中に用意しておきたい。もちろん大人もである。図書館は8館全て必要である。ぜひ8館とも残していただきたい。</p>
55	<p>(図書館)</p> <p>・図書館の削減計画について、図書館は街の文化のバロメーターのひとつである。市は将来の北杜市をどんな街にしたいと考えているのか。市民の声は“聴くだけ”、決めるのはこちらの“勝手”となっているように思えてならない。このようなことがこれからも通れば、“魅力ある街”には程遠く、人口は増えるところか逆に減少していくのではないか。この街で生涯生活を楽しみながら、安心して暮らしていける北杜市になるように再考していただきたい。図書館はいまのまま全館残していただきたい。</p>

56	<p>(図書館)</p> <p>・市内に8つある図書館を3つに減らさないでいただきたい。コミュニティ・コモンズという名前を使わないでいただきたい。「コモンズ」という言葉は分かりづらく、公共のものではない造語の一つを公共の用語にしてはならない。共通化するには説明と理解が必要。</p>	
57	<p>(図書館)</p> <p>・市内の図書館のうち、3ヶ所だけ図書館機能を残し、5つの図書館をコミュニティ・コモンズとして、図書貸し出しをしないということに反対。借りた本を借りてゆっくりと読むことができることが図書館の良い所。調べ物なら、行って済むが借りて読むことが大事な事。特に子育ての頃は活用したことが多々あった。身近に図書館がなくなるといのは考えられない。住民への説明をきちんと行い、声を聴いていただきたい。</p>	
58	<p>(図書館)</p> <p>・8つの生活圏に 8 つの図書館を存続、さらに未来の北杜市の豊かさにかなう多機能、多様な学習の場をつくっていくことは、行政のそして地域市民の大切な役割である。行政が、高齢社会や財政を前面に持ち出して縮小や市民を遠ざける方策を打ち出して将来への方針を急ぎ打ち出すことに反対する。図書館行政は巨額の予算を伴うことではないと思われる。会計年度職員を採用し、本来配置されるべき専門職員がほとんど配置されてこなかったこれまでの国を含めた行政の在り方こそ問われるべき問題。財政については、市民の生活や文化水準のたゆまぬ向上こそ第一に考えられるべき。市職員の安全が守られることは前提だが、毎年幾億円もの新庁舎建設基金が当然のごとく積み立てられている。行政の視点は教育ならば子どもたちを中心に、図書館ならば地域の人の生活や文化に資することを目標に置くべき。今次、当局が突然持ち出している「コミュニティ・コモンズは充実されるべき図書館ではない。子どもたちや利用者を図書館から遠ざける一方便にすぎない。「町にひとつの図書館は存続させるべき」、「3 館にすると 5 つの町には図書館がないことになる。町の人にとって寂しい」などの声を聴いた。市民のくらしの周辺を豊かにしてこそ市民相互の交流も深まり、若い新移住者・家族が暮らしていく大切な目安になるだろう。</p>	
59	<p>(図書館)</p> <p>・現在ある市立図書館を8館から3館に減らし、小淵沢・高根・白州・武川・明野の図書館を「コミュニティ・コモンズ」と称する施設に改編するという、当局の案について再検討をお願いしたい。公共施設の縮減についてすべて反対という立場ではない。ただ総論でいえば、公共施設全体の面積を人口で割ってその一人当たり面積を4割削減という乱暴なやり方には無理がある。維持管理費や利用状況など総合的に判断して、無駄を省いていくという手続きが必要だと考える。現在の図書館には、市民の文化活動に果たしている大切な役割がある。各地区の朗読サークルは、金田一図書館が主催する朗読会「やまびこ」を始め、多彩な活動を続けている。子どもたちへの読み聞かせ活動もあり、小学校の読書活動の場にも利用されている。</p> <p>新たに「コミュニティ・コモンズ」なる施設に替えると、どの程度維持管理費が削減されるのか、またそこに集う人々が何を目的に利用するのか、理解することができないし、説明もない。現在、各図書館はそれぞれ特色を打ち出して、市の広報を通じて図書館の更なる利用を市民に働きかけている。8館を残し北杜市図書館の文化的価値を誇りにしていくべき。</p>	
60	<p>(図書館)</p> <p>・コミュニティ・コモンズの機能について</p> <p>貸し出し、返却、読み聞かせなどのサービスとあるが、予約本だけと限らず図書館の機能としては今までのような貸出などをしていただきたい。図書について、レファレンスのできる司書の配置が必要だと思う。むかわ図書館が入る甲斐駒センターせせらぎは、合併後にできた施設であるし、図書館を含む、児童館、つどいの広場、学習室、会議室、ホールを併用している複合施設である。図書館としての機能はもちろんだが、近くに小中学校、保育所、子育て支援住宅、市営住宅など立地条件からも、既にコモンズの役割を果たしている。これまでも数々のイベントを開催してきた。これからは現状を残しつつ、高齢者のつどいの場、交流が持てる大型紙芝居読み聞かせ回想法など健康寿命延伸のためのイベントを開催し、介護保険の使用の削減にもなるようにしていく。子供たちのいこいの場となる様な場所として、アマニシンなどの手法などで読み聞かせ、ゲーム等、にんぎょう劇でイベントを開催していく。子供たちの集まる遊びが少ないと言われている。子供たちが楽しく過ごせるような場所に図書館を核にしていきたい。少子化対策にもなると思う。少子化対策として注目されている明石市では、図書館を重視し、小さい図書館を増やしているそう。すぐ手に取って本が読めることが大切である。図書館が子供たちから高齢者のため役立つ施設である。武川図書館は、今、十分にコミュニティ・コモンズとして役割を果たしている。コミュニティ・コモンズの事業については、みな人からの情報ばかりで教育委員会や図書館の方からは聞いていない。具体的なきちんとした説明をしていただきたい。私たちは武川の人たち(を中心とした)コミュニティやいこいの場として、図書館を核にボランティアをし、これからもしていきたいと思う。きちんと私たちに説明をしていただきたい。</p>	
61	<p>(図書館)</p> <p>・5図書館⇒コミュニティ・コモンズ化再考せよ。1/23「意見交換会」で提示された5図書館のコミュニティ・コモンズへの転換図は愚策である。図書館を図書館として残し、コミュニティ・コモンズは居場所機能、寄り合い、談話の場所として独立して公共施設の中に作れば良いのではないか。</p> <p>各図書館を図で示した変更案を見たが、現図書館の中に無理やりスペースを作っている為、図書館に来た人も迷惑だし、会合の為やおしゃべりに来た人もゆっくりできない。小淵沢の図書館前のスペースや武川せせらぎホールのロビーや高根図書館の浅川資料館、共有のロビーなど恰好のスペースではないか。また、こういったスペースは公共施設個別施設計画の中でいくらでも改変時に創設できるものである。5図書案をコミュニティ・コモンズへという命題から一歩も出ずに考えるから愚策が生まれてくる。</p>	

62	(図書館) ・提言書にのっているコミュニティ・コモンズがどんなものなのかイメージできない。図書館機能が残るのか(本の貸し出し、取り寄せ、支所を置くなど)。私は日常生活で移動手段は徒歩と公共バスであり、高根図書館は生活の一部である。生活から外すことはできない。コモンズは図書館をなくさなければいけないのか。どうかコモンズと図書館のことは切り離して考えていただきたい。コミュニティ・コモンズは他の方法で考えていただきたい。	
63	(図書館) ・図書館は知的財産と言われる程、その地方の文化水準が問われると思う。広大な北杜市、5万人の人口、東京 23 区と同じ広さであり、120 万人の人口と比べてしまうと意味がないと思う。自分たちの住まうこの土地が大好きと言える北杜市にしたい、又、議員さんにその思いを大事にしてもらいたい。何十億円の市庁舎より、住民が求めている日常の生活に力を注いでもらいたい。8館の図書館を改善しつつ、司書と共によりよい図書館を目指していただきたい。コミュニティ・コモンズの考えである学習の場、交流の場を今の8館の図書館に設置することで、市内外から注目されると思う。図書館に行ったことがない人も他の機能が併設されることで人の出入りが多くなるでしょう。	
64	(図書館) ・図書館を8館から3館に減らし、5館をコミュニティ・コモンズにする件について 図書館利用者が減っているので、館を減らすということは時代の流れで仕方ないとも思ったが、8から3はあまりにもひどいと思う(1、2館減らすのかと思った)。幸い、一番近くの長坂図書館は図書館として残るようである。しかし、高根の図書館がなくなるのはもったいない。良い図書館で、児童書を探すなら長坂より使い勝手が良い。司書の給料の問題なのか。それと、読み聞かせボランティアの人でさえも、このことを知らない人が多い。皆への知らせが足りない。こんなにどんどん進めて減らさないでいただきたい。どうぞ、減らさずに北杜市の財産として大切にしていきたい。	
65	(図書館) ・北杜市8図書館を3つに減らす予定だそう。統合して出来た市としては当然考える政策であるが、これを計画している「あなた」は、図書館の少ない北杜市に、統合された小中学校の少ない非文化的な北杜市に住みたいと思うか。あなたが住みたい北杜市を計画していただきたい。	
66	(図書館) ・私は図書館は現状を維持し、8館のままで残してもらいたいと思う。5館だけコミュニティ・コモンズという中途半端な施設にするのは反対。8つの図書館は大小の違いはあれ、それぞれに個性がある。私は年金暮して生活も厳しく、最大の趣味は読書であるが、新刊書を購入する余裕はない。 また、図書館に向いて面白そうな本を探すのも大きな魅力である。市は、一つの市に8つもあるのは多すぎる、と言いますが、館長は中央図書館にしかおらず、事実上1館7分館ではないか。残す予定の3館の機能の強化、充実を図ることだが、だとすれば3館すべてに館長を置くべきであり、そうなるとかえって人件費がかさむという「行革」と真逆の方向になる可能性すらある。是非とも、計画(素案)を変更し、図書館を8館存続していただきたい。	
67	(図書館) ・小淵沢図書館は、支所、生涯学習センターの中にあり、いつも便利に利用させてもらっている。最近、読みたい本をリクエストしたら、すぐに取り寄せてくださり、電話で連絡いただいた。それが、コミュニティ・コモンズになるということを聞いた。今置いてある本はほとんど残るようだが、司書は不在、その本は貸し出ししないとのこと。新しい本も増えないそう。借りたい本は、リクエストして他館から取り寄せとのことだが、現在の様に手に取って読むかどうか決めてから借りることができなくなる。何より司書に相談できなくなるのは本当に困る。専門性のある方々を減らすことも、北杜市の文化を衰退させることになると思う。文化は心の豊かさにつながる。拙速に決めないでいただきたい。	
68	(収蔵庫) ・収蔵庫は、5箇所から3箇所に削減される方針だが、今後、収蔵物は増える方向かと思う。収蔵スペースが不足する可能性はないのか。収蔵物の量の予測はしてあるのか。	<p>■原案どおり (収蔵庫)</p> <p>・現在の収蔵庫は、規模も小さく点在していることから、非常に効率が悪い状況であります。いただきましたご意見のとおり、今後、増加していく収蔵物量を見込み、本計画の最適配置方針に記載したとおり、市の普通財産等を活用(規模の大きな施設に集約)することを検討してまいります。(学術課)</p>

5-4 スポーツ施設(87～98 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
69	(プール) ・大泉の温水プールは、健康維持に大変有効であり、リハビリの必要な人や足の悪い人も大勢利用している。他の地域にも温水プールを作ってほしい。また、水中ウォーキングの指導者の育成にも力を入れてもらいたい。	<p>■一部その他 (プール)</p> <p>・本計画では、「いずみプール」は今後も維持する施設としております。</p> <p>一方、他地域へ新たにプールを新設することは、公共施設縮減の観点から非常に困難であると考えております。このため、「いずみプール」の更なる活用の拡大を図るため、利用する皆様の移動手段や指導者の育成など、利便性の向上に向けた検討を行ってまいります。(生涯学習課)</p>

70	<p>(体育館)</p> <p>・体育館は、9箇所から5箇所に削減とあるが、避難所指定されている体育館がなくなってしまうことによる避難所不足は起こらないか。避難者数予測や防災計画との整合性はとれているのか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>(体育館)</p> <p>・本計画において、全ての体育館は、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)が定まっていない「方向性検討施設」であることから、今後、「北杜市地域防災計画」に記載のある避難所及び収容人数等を踏まえる中で、縮減する施設の検討を進めてまいります。具体的には、個別施設の機能を廃止する場合、近隣に避難所の確保が可能であるか又は建物を譲渡等する場合は、避難所としての解放を条件とするなど、防災面にも配慮した検討を行ってまいります。</p> <p>(消防防災課・政策推進課)</p>
71	<p>(ゲートボール場)</p> <p>・施設分類別の対策についての提案</p> <p>「屋内ゲートボール場についての考察その1」北杜市には、行政管理(生涯学習課等)施設・指定管理施設・体育協会管理施設など、10箇所以上の屋内ゲートボール場がある。現在のゲートボールの競技人口は、市内では200名程度となっているが、競技人口の増加は見込めない状況であり、減る傾向にある。高齢者の健康管理において、スポーツ施設は必要であると思うが、体育館などを利用する、バドミントンや卓球等、インドアスポーツ施設は十分に存在している。このような状況を踏まえ、屋内ゲートボール場を市全体で 4 箇所程度に縮減し、福祉関連施設に置き換えてみては如何か。多くの市民が『大切にしたい』と思う共有財産としての施設が、今後は望まれるものと感じている。</p> <p>「屋内ゲートボール場についての考察その2」『皆の寄り添い場所”絆カフェ”(仮称)』～地域と地域が「つながる拠点」、福祉避難所として「つながる安心」～飲食が気軽にできて、年間を通じて利用可能な場所の設置。このような「居場所」が必要ではないかと感じている。</p> <p>「屋内ゲートボール場についての考察その3」『ユーティリティスペース』～地域食堂(子ども食堂)、フリーマーケット&ハーターマーケット、心の語り場(シングルペアレンツ&ヤングケアラー等)、ハートフルバンク～飲食店営業許可必須！イートインで食材加工をし、地域食堂(子ども食堂)の運営。ハートフルバンク→フード・ウェア・シューズ・日用品などの供給場所の設置。日常的に「食材」「服飾」「靴」「古着・おもちゃ」・etc・これらを収集し、必要とする方々への提供の場を設置する。持続可能な体制でのぞむ。</p>	<p>■その他</p> <p>(ゲートボール場)</p> <p>・本計画において、本市が保有する屋内ゲートボール場は、10箇所から6箇所に縮減することとしております。</p> <p>今後、施設の縮減により、機能を廃止した建物は、他用途に転用や民間等への譲渡など、幅広く活用方法を検討してまいります。その際には、いただきましたご意見を参考とさせていただきます。(政策推進課)</p>

5-5 産業系施設(99～118 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
72	<p>(直売所施設)</p> <p>・合併により活用されなくなり、建物が老朽化しているものがあるので、その様なものの再活用化等での民間委託は考えていかなければならない。しかし、武川の産直センターのような、利用も多く、地域住民の大切な”店”、交流の場にもなっている様な施設はぜひ残していただきたい。大規模な「道の駅」だけでなく、身近な買い物の「店」としても大事な所である。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画において、直売所施設は、民間への譲渡を原則に検討することとしております。このため、今後、譲渡の検討に当たっては、民間事業者等により、現在と同一内容の運営を継続していくことを第一に優先する中で進めてまいりたいと考えております。ご理解をお願いします。(商工・食農課)</p>

5-6 子育て支援施設(119～129 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
73	<p>(保育園)</p> <p>・保育園は、施設の共有化ではなく小さな保育園でもよいので、住居の近隣に必ず保育園がある環境を目指すほうが子育て世代には助かる。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>(保育園)</p>
74	<p>(保育園)</p> <p>・民間活力の活用に向けた検討・第1期前期より指定管理者制度の導入とある。市の業務の外部委託化の問題点を述べる。例として、学童保育は「子どもの健全育成」という事業目的を持つが、ある学童では、民間運営となり、季節ごと子どもが楽しみにしている行事やおやつがなくなる事態となった。「子どもの健全育成」に照らせば、栄養価や季節感、食感を考えて提供してきたが、それがなくなる。駄菓子をおやつに出す学童も生まれ、事業目的が軽んじられる。指定管理者に、現場の声が正確に上部に伝わらない。自治体も学童をよりよくしていく視点がなくなる。行政が直営の場合、使用する市民も単なる利用者でなく、それを支える主体者の一人であり、また、利用者の協議会があり、議論して運営してきた。しかし、行政が抜けて指定管理者になると、市民も単なる利用する側になり、住民の自治の発展という面からも障害となる。こうした事例から、削減とともに、民間委託は、問題が大きいことがあげられる。市民合意を尊重すべきだ。</p>	<p>・保育園の最適配置後の配置数(8 から 10 箇所)は、「北杜市新・行政改革大綱」に基づき決定しております。このため、各地区(旧町村内)に1から2箇所の配置を基本とし、地区内に複数の施設を有する高根地区及び長坂地区においては、先行して統合、再編を進めることとしております。</p> <p>あわせて、保護者のニーズに応じたサービスの充実を図るため、いただきましたご意見のような問題が生じないよう民間活力の導入に向けた検討も慎重に進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、本計画書(P232)に記載したとおり、施設特性による利用圏域を踏まえた公共施設の配置バランスの検討結果において、現在の1人当たりの平均所要時間 11.5 分/人に対し、適正化後は 15.8 分/人と、所要時間にも大きく変化が生じないものと考えております。(こども保育課・政策推進課)</p>

75	<p>(子育て支援センター)</p> <p>・子育て支援センターは、6箇所から3箇所に削減するとあるが、面積の広い北杜市で3箇所は少なく、小さい子どもを連れてお母さんが遠くの施設まで行かなくてはならなくなる。上の子の送迎などを考えても、施設の複合化、多機能化などによる小学校単位での設置を検討してはどうか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>(子育て支援センター)</p> <p>・本計画において、子育て支援センターの縮減数及び縮減面積は、お示ししておりますが、現時点で、つくしんぼルーム以外の個別施設の方向性(維持、廃止等)は定まっております。このため、今後、市民の皆様からのご意見をお聴きする中で検討を進めてまいりたいと考えております。また、施設の縮減により、移動距離及び時間が増加することもあるかと存じますが、ご理解をお願いします。(こども保育課・ネウボラ推進課)</p>
----	---	---

5-7 学校教育施設(130~139 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
76	<p>(中学校)</p> <p>・中学校の統廃合は、マンモス校を作るより既存の学校を活かしつつ、少人数学級のほうが学習効果は高くなる。また、マンモス校だと教員の目が行き届きにくくなり、いじめや不登校などの問題が起こりやすくなるように思う。伊那市の中学校統廃合問題で明るみになったように、山間部に居住する生徒がスクールバスで1,2時間もかけて通学することになるかもしれない。</p>	<p>(中学校)</p> <p>■原案どおり</p> <p>・中学校の最適配置後の配置数(3から5箇所程度(甲陵中学校を含む))は、「北杜市新・行政改革大綱」に基づき決定しております。いただきましたご意見のような問題等が生じないよう、現在、「北杜市立中学校再編整備検討委員会」において、生徒数や定員数、学校施設・設備、教員等の配置も考慮する中で、中学校の適正規模、適正配置、通学区域について検討を行っているところであります。</p>
77	<p>(中学校)</p> <p>・新生児の出生数が、北杜市全体で 180 人との話を聞けば、学校数を減らさなければならないことは明確であり、白紙撤回したと言われている中学校の統合計画を早期に再開し、適正規模として統廃合するべきである。統合方法の一つとしては、小中一貫校の建設であり、中学校の一部を改修することで可能になると思う。それには、当然スクールバスを整備することが必要になるが、学校数が減少したことによる人件費や維持管理費などの経済的メリット及び児童生徒の安全な通学が担保できることもメリットである。</p> <p>また、廃校となった学校は、分散している資料館等を集約し、展示施設として再活用することで職員の削減や来館者が楽しめる施設になることが期待できる。</p>	<p>また、廃校となった施設の利活用は、庁内で情報共有を図る中で横断的に検討を進めてまいります。</p> <p>なお、甲陵中学校は、甲陵高等学校との中高一貫校であることから、今後も維持することとしておりますので、ご理解をお願いします。(教育総務課・甲陵中・高・政策推進課)</p>
78	<p>(中学校)</p> <p>・中学校は、各町1校を残すべきである。スクールバスの導入により、むしろ市の支出が増加することが危惧される。</p>	<p>・本計画において、中学校の縮減数及び縮減面積は、お示ししておりますが、現時点で個別施設の方向性(維持、廃止等)は定まっております。このため、今後、「北杜市地域防災計画」に記載のある避難所及び収容人数等を踏まえる中で検討を進めてまいります。具体的には、個別施設の機能を廃止する場合、近隣に避難所の確保が可能であるか又は建物を譲渡等する場合は、避難所としての解放を条件とするなど、防災面にも配慮した検討を行ってまいります。</p>
79	<p>(中学校)</p> <p>・中学校の延床面積は約70%の縮減となり、他の施設分類に比べて極端に大きい。「子育てで選ばれるまち」という目標に対して、教育や子育て支援施設の大規模縮減は矛盾しないのか。</p> <p>また、R33年時点での延床面積は何校として算出しているのか。大規模な再編になるにも関わらず、新設ではなく既存施設を利用するのか。</p> <p>現在、まだ意見集約中で、検討委員会も議論半ばであり、各地域の動向によっては小学校との統合の方向性もゼロではない。今の時点で校数の方針を示すべきではない。</p>	<p>(消防防災課・政策推進課)</p> <p>・本計画において、中学校の計画期間満了時(R33)の延床面積の算定は、現在の1施設当たりの平均延床面積(甲陵中学校以外)に、2施設を乗じて算定しております。しかし、いただきましたご意見のとおり、現時点で施設数や既存施設を活用するのか又は新築するのかなどの方向性が定まっていないことから、今後、検討を進め、決定した段階で、本計画に反映してまいりたいと考えております。(教育総務課・政策推進課)</p>
80	<p>(中学校)</p> <p>・甲陵中、高等学校は、残すことを前提としているが、市民の利用率が低いと、県への移管等を検討すべきでは。それだけでも縮減となり、廃校する中学校の数を減らせるのではないのか。</p>	
81	<p>(中学校)</p> <p>・不登校の児童数が、他市と比べると格段に多いと聞く。この原因を精査して、問題解決を図った後でないと、学校再編の方向性を誤り、子ども達を更に追い込む結果になりかねない。再編の前に、不登校問題の解決が先行すべきではないか。</p>	
82	<p>(中学校)</p> <p>・単純に学校を廃校にする案には反対。水平統合でなく、垂直統合という方法もあるのに、無視して強引に廃校だけを求めるやり方には反対。中学校がなくなった地域が限界集落への道を進むことは明らかで、それこそ移住者はゼロになる。教育を預かる教育委員会が率先して統廃合を進めるのはおかしい。北杜市は不登校児童が飛び抜けて多いと聞いた。その改善を図るのではなく、ますます不登校児童を増やすやり方を進めるなんて、何を考えているのか？もっとまともな計画を作ることを要望する。</p>	
83	<p>(中学校)</p> <p>・「市立中学校再編整備検討委員会」の構成は、あて職の委員が多く、毎年のように委員が変わる中での検討は、教育問題を論ずるのにふさわしくない。</p>	

84	(中学校) ・中学校再編には、「甲陵中学校を含む」とあるが、これまでのワークショップ、審議会、検討委員会の全てで「甲陵中学校は除く」と説明している。大きな矛盾であり、意図的な記述である。	
85	(中学校) ・現在の市立中学校の生徒の状況(学習、不登校、長欠、通学、校則など)が、ほとんど論議されない中での建物の再編は北杜市の将来に禍根を残す。	
86	(中学校) ・学校教育施設の面積削減率がトップだが、教育に関してはハード面だけではなく、不登校児童が増えている今、次世代を担う子どもたちの健全な育成に必要な学校環境を目指すソフト面の議論が足りていない。	
87	(中学校) ・中学校への通学所要時間は統廃合により、現状より大幅に増える見込みである。市民アンケートでも「通いやすさ」を求める声は多く、「通いやすさ」とは概ね「車で10分」とされている。 たまに使う「施設」ではなく、毎日通う「学校」の通学時間が「毎日片道約30分」は負担が大き過ぎる。現実的な通学なのか、中学生の重いカバンと部活動のある早朝と夜間に合わせて、実際に担当課や学校関係者、保護者でやってみる必要があると思う。(富士川町で統廃合の検討のため行った実例あり)	
88	(中学校) ・中学校9校の中で、「甲陵中学校」のみ維持する特別扱いに納得できない。また、中高一貫校であるという理由も、今の北杜市の状況からみて見直すべき。	
89	(中学校) ・中学校も小学校同様、合併前の8地域にそれぞれ1校設置し、学びの継続、地域の特色の継承の中心であるべきだと考える。	
90	(中学校) ・放課後の活動の場が小規模校では困難があるという説明があったかと思うが、現在の教育現場における働き方改革が大きな課題になっていることに逆行する。未来の地域社会を担っていく児童生徒たちに、地域の中学校を存続させていただきたい。	
91	(中学校) ・武川・白州地域に中学校がなくなってしまうことには疑問を感じる。防災拠点施設にもなっているし、今回の能登地震の様に、たくさんの人の避難を受け入れる状況が出てきた時にどうするのか。町毎の説明会や意見を汲み取る努力をしていただきたい。中学生も30分の通学(スクールバス)はかなりの負担になる。また、中学が遠くなれば、武川には子育て家族は住まない。魅力ある「まちづくり」をもう少し皆で考える時間をいただきたい。また、山梨県一の不登校数である北杜市、その対策を置きざりにして、統廃合を進めるのはいかがなものか。	
92	(中学校) ・町内から中学校が無くなる？それは子供がいなくなるという事です。今ある不登校問題はどのようにするのか。	
93	(学校給食センター) ・学校給食センターは、財政や効率化の観点ではなく、教育施設として地産地消や食育を推進するために、自校式に戻す必要がある。更に、学校が複合化した際には、併設施設利用者のためのランチルームとして市民の交流の場や、メニューを選べる給食の提供、子ども食堂としての機能も視野に入れるなど、新しい発想を取り入れ、柔軟に検討していただきたい。	<p>■原案どおり (学校給食センター)</p> <p>・学校給食センターの最適配置後の配置数(2箇所)は、「北杜市新・行政改革大綱」に基づき決定しております。</p> <p>今後、更に食育の推進や安全安心な給食の提供に向け、ハード面、ソフト面ともに充実を図ってまいりますので、ご理解をお願いします。(学校給食課・政策推進課)</p>

5-9 医療施設(149~152 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
94	(病院) ・運営費、維持管理費等で統廃合を検討し、市立病院の統廃合が最優先に論じられて然りだと思ふ。本市の人口規模に市立病院が2箇所も必要あるのか。現在までに投入されている莫大な予算や将来的な運営費、施設管理費、必要性を考えると、市立病院の統廃合、民間委託、譲渡を検討して然るべきでは。今後も莫大なコストがかかるであろう市立病院を統廃合の対象から除外し、病院職員の身分や地位を守ろうとしているのではないかと勘繰ってしまう方がいるかもしれない。	<p>■原案どおり (病院)</p> <p>・県内で最も広大な面積を有する本市は、医療機関が少なく市立2病院において地域医療の中心を担っています。このため、「山梨県地域医療構想」に沿いつつ、今後も市立2病院を維持し、市民の健康維持を目的とした地域医療を守る上で、次のとおり地域の実情にあった役割を担ってまいります。</p> <p>①かかりつけ医として地域に密着した病院</p>
95	(病院) ・塩川病院と甲陽病院の2箇所、辺見診療所と白州診療所の2箇所ともに、現在の配置を維持の方針に大賛成、感謝している。この先も、安心して住み続けることができることとなる。本当にありがたい。	

96	(病院) ・病院の現状がよくわかった。自分も塩川病院にかかっている。高齢人口が増え、利用人口も増えていく。リハビリ病院を希望していますが、それぞれの病院の特性を生かし、在宅復帰も大切なことと思う。人手の確保の問題もあるが、なくなることを祈る。	②かかりつけ機能を強化した救急医療の実施 ③へき地医療、在宅診療の実施 ④地域特性(観光客などの市内流入者)に対応した医療の実施 (健康増進課)
----	--	--

第6章 施設分類別保全計画(保全ロードマップ)(174～189 ページ)

6-1 施設分類別保全計画の策定に当たっての注意点(174 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
97	・176 ページ 表中の棟名 須玉農村総合交流ターミナル(中央図書館)となっているが、(須玉ふれあい館)では。	■追加・修正 ・ご指摘のとおり、「須玉農村総合交流ターミナル(中央図書館)」は誤記でありますので、「須玉農村総合交流ターミナル(須玉ふれあい館)」に修正します。(政策推進課)

第7章 削減効果の検証(190～196 ページ)

7-1 施設総量の縮減量(190 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
98	・「北杜市公共施設等総合管理計画」では、更新費用を 22.2 億円まで圧縮可能だが、直近の 10 年間の実績額 17.1 億円よりも 5 億円超過している。これに対し、本計画では、将来更新費用(対策後費用)は年間約 29.6 億円で、22 億円を約 7.6 億円程度上回っている。新たな財源確保の金額が更に上振れしている。財源確保の見通しは。財源確保ができない場合はどうするのか。非常に心配である。	■原案どおり ・本計画では、「北杜市公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設の整備等に充当可能とされる年間予算額を 22 億円と定めております。 今後、財源確保の取組を推進し、仮に直近10年間の整備・改修費用である 17.1 億円から超過する額の確保が困難な年度が生じた場合においても、財政部局と協議し、市の財政状況を考慮する中で 22 億円の予算確保に努めてまいります。 また、本計画書(196 ページ)図 7-4 保全計画に示される事業費合計額及び年間予算の比較においては、今後、方向性検討施設の方向性が決定した時点で随時追加してまいります。(政策推進課)
99	・196 ページ 図 7-4 保全計画に示される事業費合計額及び年間予算の比較では、改修等が集中している第1期前期と第3期前期でも、ほぼ年間予算 22 億円で実施可能と受け取れる。 これは、方向性検討施設の費用が含まれていないことによるものと思われるが、方向性検討施設はどのように扱うのか。十分な説明がないと、予算がないから切り捨てられるのではないかと心配になる。丁寧な説明の追加をお願いしたい。 第1期前期と第3期前期以外は、事業費に十分ゆとりがあるように見える。方向性検討施設の方向性が決まったら、事業費が上乗せされるとの理解でよろしいか。	
100	・193 ページ、194 ページ 将来更新費用は 29.6 億円で、充当可能な年間予算 22 億円を 7.6 億円上回るとあるが、196 ページ 図 7-4 では、第1期前期と第3期前期以外は年間予算 22 億円で実施可能となっている。方向性検討施設の方向が決まったら事業費が上乗せされるのか。	
101	・北杜市公共施設等総合管理計画【第2回北杜市公共施設等総合管理計画等検討委員会資料】46 ページでは、更新費用を 22.2 億円まで圧縮可能だが、直近の 10 年間実績値 17.1 億円よりも 5 億円超過する目標となっている。そのため新たな財源確保が必要との記載がある。新たな財源確保ができない場合はどうするのか、心配。財源問題について、基金はきちんと充当され、単年度は黒字であると聞く。	■原案どおり ・本計画における改修等の試算単価について、現在の単価は、近年の建設工事費を取り巻く状況を反映した金額を採用しております。しかし、将来の単価が示されている資料等が存在しなく、予測することは非常に困難であることから、現在と同額を記載しております。 今後、社会情勢等の変化により、金額に大きく差が生じるような場合は、国等の公表資料を参考にする中で、随時金額の見直しを行ってまいりたいと考えております。(政策推進課)
102	・192 ページ 試算単価について、近年の建設工事費を取り巻く状況の変化を反映したとの記載がある。例えば、176 ページ 文化施設、須玉農村総合交流ターミナル(須玉ふれあい館)の改修費用は、第1期前期と第3期前期とも同額が記載されている。20 数年先の単価も現在と変わらないとして試算しているのか。そうであれば、試算結果の信頼性、ましてや計画全体の実行性も疑問である。この計画は、本当に実行可能なのか。	

第8章 計画の進行管理(197～199 ページ)

8-2 計画の推進体制(198～199 ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
103	・今後の推進体制が、市民の意見や議会での審議など保障されない形でよいのか。	■その他 ・本計画は、本市が保有する362施設について、個別施設ごとの今後の方向性を定めることを目的としておりますが、施設分類も多岐に渡っていることから、市民アンケート調査の結果を踏まえ、施設分類ごとの施設縮減量及び縮減面積をお示したところであります。 今後、施設分類ごとに個別施設の検討を進めていくに当たっては、それぞれの施設に関係する皆様にも参画をいただく中で検討を行っていく必要があると考えます。
104	・199 ページ 2031 年度、2041 年度に計画に見直しとあるが、長期に渡って責任ある体制で見直しなどできるのか極めて疑問。市長や幹部職員も変わるのに。途中での見直しに合わせて、市民も参画できる委員会設置を強く要望したい。	
105	・計画は、28 年と長期に渡るものになっているが、この体制の中に「市民の参加」が位置付けられていない。市民も参画できる「特別委員会」が必要ではないか。パブリックコメントがそれだとすれば、ずいぶん乱暴で不誠実な姿勢である。市民の参加の具体的な体制をぜひ検討すべき。	

106	<p>・財政課、施設所管課、政策推進課が担っているが、市民に対してアンケートだけでは周知不足の域を出ない。現場の声をすくいあげるべく、保健師、教師、支援センタースタッフなど市民と直接触れている職員も体制に関わり、机上だけの議論にならないようにしてほしい。</p>	<p>このため、いただきましたご意見を参考にさせていただき、より多くの市民の皆様のご意見をお聴きし、反映できる体制づくりに向けた検討も進めてまいりたいと考えております。</p>
107	<p>・計画の推進体制を見ると、市民の意見取は恣意的な市民アンケートとパブリックコメントのみで、後は各種委員会などで決定・推進していくように思える。2023年の委員会には公募がほとんどなく、それ以前に審議された委員会の答申は生かされていないようである。市民の意見を聞くだけでなく、意見を反映するシステムが必要ではないか。28年間と長期に渡る計画なので、途中での見直しは当然必要である。今からでも遅くないので、推進体制に記載された委員会だけでなく、市民、行政、議員、専門家も参画して個別施設の方向性を話し合い、決定していけるような仕組みも考えるべきではないか。それをはっきり言いたい。</p> <p>(8-2以降の計画の推進体制)</p> <p>下記、下線のある委員会は、どのような構成の委員会なのか不明である。「<u>北杜市行政改革推進委員会</u>」において、計画の進捗状況及び今後の方針について審議していく。各期末(第1期末 2031年度、第2期末 2041年度)に進捗状況の検証及び次期の内容を見直し、<u>北杜市公共施設等総合管理計画推進本部</u>、<u>北杜市行政改革推進委員会</u>、及び<u>北杜市公共施設等総合管理計画等検討委員会</u>に諮った上で、改訂する。</p>	<p>・「北杜市公共施設等総合管理計画推進本部」は、北杜市公共施設等総合管理計画の進捗管理及び改定に関すること、全庁的な公共施設マネジメントの実施及び推進に関すること、その他公共施設マネジメントの推進のために必要な事項に関するについて審議する庁内の組織であります。</p> <p>「北杜市行政改革推進委員会」は、市長の諮問に応じて本市の行政改革の推進に関する重要事項を調査し、審議する外部委員で構成される組織であります。</p> <p>「北杜市公共施設等総合管理計画等検討委員会」は、北杜市公共施設等総合管理計画に関すること、北杜市公共施設等個別施設計画に関するについて審議する外部委員で構成される組織であります。(政策推進課)</p>

資料編(200～235ページ)

資料2. 北杜市が本来保有すべき中分類ごとの公共施設の総量(206～207ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
108	<p>・各分類の「保有すべき総量」の算出に使われた根拠となる基準(公的算定基準など)や同規模自治体データを明記し、どのような計算でこの値となるのかを分かるようにしていただきたい。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・本計画において、北杜市が本来保有すべき中分類ごとの公共施設の総量について、公的算定基準に基づく算出は、次の基準に基づいております。</p> <p>①庁舎等 庁舎規模算定に関する基準に基づく面積が現有面積を上回ることから、現有面積を保有すべき面積の上限目安として定めております。</p> <p>②図書館 公立図書館の任務と目標(日本図書館協会)における「図書館システム整備のための数値基準」に基づく延床面積を、保有すべき面積として定めております。</p> <p>③武道場 「21世紀に向けたスポーツの振興方策について(答申)(平成元年)」に基づく面積を、保有すべき総量の目安として定めております。</p> <p>④放課後児童クラブ 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準に基づく面積を、保有すべき総量の目安として定めております。</p> <p>⑤小学校、中学校 学校統廃合シミュレーション(東洋大学)に基づく参考数値を、保有すべき総量の目安として定めております。</p> <p>また、同規模自治体における施設保有量に基づく算出は、本市と同規模自治体の第一四分位数を保有すべき面積の目安として定めております。</p> <p>なお、上記を含む全ての計算根拠を本計画に掲載することは、分量的に困難でありますので、ご理解をお願いします。(政策推進課)</p>

資料5. 施設特性による利用圏域を踏まえた公共施設の配置バランスの検討結果(228～235ページ)		
No.	ご意見要旨	対応と考え方
109	<p>・子育て支援センターは P123 で 6 か所から3か所に減ると書かれているが、ここでは6か所のままとなっている。どういうことか。また、3か所に減ることで、所要時間はどう変化するのか。</p>	<p>■追加・修正</p> <p>・P232 子育て支援センターの適正化後の配置数は、3箇所の誤りでありますので、修正いたします。</p> <p>なお、修正により所要時間は 24.1 分に変更となります。(政策推進課)</p>
110	<p>・公共施設の配置バランスの検証で、中学校は適正化によって所要時間が 25 分増え、他の施設に比べて極端に配置バランスが低下するが問題はないのか。</p>	<p>■原案どおり</p> <p>・現在、「北杜市立中学校再編整備検討委員会」において、生徒数や定員数、学校施設・設備、教員等の配置も考慮する中で、中学校の適正規模、適正配置、通学区域について、総合的に検討を行っているところでありますのでご理解をお願いします。(教育総務課)</p>